



答弁者 : 002出野副知事

通告番号 : 1-()-

関係所属 : スポーツ・文化観光部
スポーツ政策課

キーワード : 1 ビーチ・マリンスポーツによる地域活性化について

質問要旨 : ビーチ・マリンスポーツによる地域活性化について伺う。
本県は500km以上にわたる変化に富んだ海岸線を有し、ビーチ・マリンスポーツ愛好者にとって大変魅力的な場所である。私の地元、浜松市でも「ビーチ・マリンスポーツの聖地」としての拠点整備やイベント実施に力を入れている。ビーチサッカー等の大会やイベント実施時には多くの人を訪れるほか、事後には必ず海岸清掃が行われ海岸環境の維持にも繋がるなど、ビーチ・マリンスポーツの振興が地域に大きなメリットをもたらすことを実感している。
東日本大震災以降、海岸地域は危険な場所になり、転居する人は後を絶たず当時は地価が1/3まで下がってしまった経緯がある。
そこで私は、8年前に、有休施設となって用途が決まっていなかった、遠州灘海浜公園江之島地区の江之島水泳場をビーチコートに転換し、ビーチ・マリンスポーツの拠点とすることを市に提言した。現在、水泳場跡地では、世界大会・全国大会が誘致できるコートを目指し整備が進められているが、この施設の完成により、ビーチ・マリンスポーツ界や地域が一層盛り上がり、期待している。
当時、私がビーチコートの整備を提言するにあたり、苦労したのは浜松市の競技者数など、実態の把握である。市内にも世界トップクラスのビーチテニス選手がいることが分かるまでも時間を要した。また、他の自治体では、競技団体が求めるコートの条件と実際のコートの仕様がマッチせず、大会の開催を見送るケースがあったとも聞く。施設整備のためには、正確な現状把握が必要である。また、大会等の誘致により、整備した施設を有効活用し、沿岸地域を活性化していくためには、県と市町、競技団体が連携し、情報共有・発信を行うことが重要であると考えている。
県内にある様々なタイプのビーチコートについて、どのコートでどの規模感の大会が開催できるのか、情報を共有できれば、市町が新たな施設を整備する際に参考となり、県内外から大会や合宿を誘致する際にも、大きなセールスポイントになるのではないかと。
そこで、本年4月に設置された「スポーツコミッション Shizuoka」が各競技団体や市町とのパイプ役になり、交流を促進するとともに、本県の資源である美しく豊かな海岸線を広く国内外に向けて発信し、市町と連携して、広く大会や合宿等の誘致を行うなど、ビーチ・マリンスポーツによる地域活性化に取り組んでいくことが必要だと考えるが、県の考えについて伺う。

ビーチ・マリンスポーツによる地域活性化についてお答えいたします。

本県は、美しく長い海岸線を有するとともに、議員から御紹介のありました「江之島ビーチコート」をはじめ、日本初の競技用大型ウェーブプールである牧之原市の「静波サーフスタジアム」など、国内トップレベルのビーチ・マリンスポーツの環境が整っております。

県では、令和2年に「静岡県ビーチ・マリンスポーツ連絡会議」を立ち上げ、市や民間団体と協力体制を構築し、情報の共有化や発信、新たな大会誘致に取り組んできたところでもあります。

本連絡会議の活動成果は着実に現れており、具体的には、今年度、サーフィンの世界大会「WSL」や、「静波パラサーフィンフェスタ」など、大規模な国際大会が相次いで開催されました。また、日本のトップ選手が集結した「第4回ビーチバレー清水カップ」では、清水駅前の特設コートに5,000人の観客が詰め掛けるなど、ビーチ・マリンスポーツによる地域活性化に手応えを感じているところでもあります。

今後は、ビーチ・マリンスポーツの舞台として絶好の環境を有する本県の「場の力」を最大限に活かして、「スポーツコミッションShizuoka」が中心となって、首都圏等におけるスポーツ関連の展示会や、今年10月に新たに立ち上げたホームページで、マリンスポーツのコンテンツはもとより、本県の魅力的な自然や食、宿泊施設や交通アクセスなどの情報を広く発信してまいります。

さらに、世界規模の大会などを誘致する際には、宿泊先や大会会場の確保など、広域での対応が不可欠であることから、「スポーツコミッションShizuoka」が主導し、市町や関係団体と仮称ではありますが「誘致協議会」を組織化し、対応を強化してまいります。